

仙台堀川公園

3月26日 (火) 曇りのち晴れ

- ★ 午前中は薄曇りでやや肌寒かったが、昼過ぎから陽が射ってきて暖かくなってきた。東京では3月21日に桜の開花宣言が出て、この日は7分咲きといったところで絶好の花見日和となった。
- ★ 地下鉄東西線の東陽町駅で下車したのは午後2時前。駅前の四ツ目通りを北へ300mほど行くと江東区役所がある。区役所の前に江東区の標高、荒川の満潮時の水位、伊勢湾台風など過去の水害で浸水したときの水位を表示した塔が建っている。その高さ一同びっくりするとともに洪水や津波の恐ろしさを実感した。
- ★ 区役所からさらに100mほど北上すると横十間川にかかる井住橋である。横十間川は北十間川と大横川を結ぶ運河で、仙台堀川や小名木川と交差している。河畔は横十間川親水公園になっていて、児童遊園、釣り堀、ボート場があり、菖蒲田もある。池には鯉が泳ぎ回り、池の中の石の上では数匹の亀が日向ぼっこをしていた。



横十間川親水公園の桜

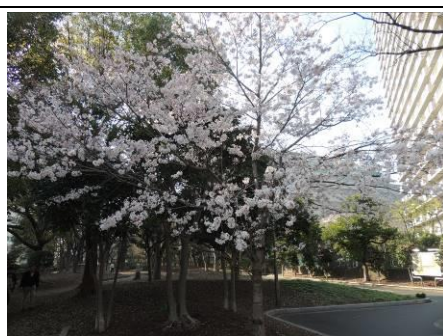


横十間川親水公園



日向ぼっこする亀

- ★ 横十間川はやがて直角に左折して北上し、葛西橋通りの先で仙台堀川と交差する。ここから仙台堀川公園に入り東進する。こちらは川幅も広く、遊歩道も広く桜並木が続いている。午後から気温が上がったせいか桜はほぼ満開である。上野公園や目黒川のような混雑はないのでゆっくりと花を愛でることができる。



- ★ 公園には広場や林や花壇などがあり、コブシ、ユキヤナギ、シャガなどが咲いている。早春は白い花が多いようである。土手には可愛い土筆が並んでいた。



- ★ 仙台堀川公園も直角に左折して北上する。その角に江戸時代に建てられた古民家『旧大石家住宅』があるが、閉館中で中に入ることはできなかった。町名が南砂町から北砂町に変わると公園の雰囲気もガラッと変わって来る。桜並木にはぼんぼりが飾られ、屋台の店が並んですっきりお祭り気分である。しかしこの辺の桜はやっと3分咲きといった所で、花見にはやや早いという感じである。それでもシートを敷いて車座になって花見を楽しむ人もチラホラと見受けられた。



- ★ 小名木川に出る一つ手前の通りで仙台堀川公園と別れ、東へ600mほど行って平成橋を渡ると荒川の土手に出た。広々とした河原と青い空、夕日に輝く川面など、大らかな気分になる風景である。草野心平作詩、多田武彦作曲の男声合唱組曲『富士山』の第肆はこのような風景を歌っている。

川面に春の光はまぶしく溢れ。そよ風が吹けば光たちの鬼ごっこ。葦の葉のささやき。行行子は鳴く。行行子の舌にも春のひかり。

土堤の下のうまごやしの原に。
自分の顔は両掌のなかに。
ふりそそぐ春の光りに却って物憂く。
眺めていた。

少女たちはうまごやしの花を摘んでは巧みな手さばきで花環をつくる。それをなはにして縄跳びをする。花環が円を描くとそのなかに富士ははひる。その度に富士は近づき。とほくに坐る。

耳には行行子。
頬にはひかり。

注 川面⇒かわづら 行行子⇒よしきり 両掌⇒りょうて なは⇒縄 はひる⇒入る

心平はやや上流の千住付近の荒川でこの詩を書いたそうである。

- ★ 荒川の土手には荒川ロックゲートがある。これは荒川と旧中川・小名木川を結ぶもので、荒川と旧中川の水位が違うため、二つの門を開閉して水位を調節して船を通すという施設である。我々の目の前を旧中川から荒川に向かって国土交通省の舟がロックゲートを通過していった。



- ★ 平成橋東詰から小高い大島小松川公園に登ると旧中川と小名木川の様子が手に取るようによく見える。江戸時代には小名木川の入口に中川船番所があり、通航する船を監視していた。現在は中川船番所資料館が建っているが、4時半を過ぎていたので見学することはできなかった。資料館の前には『川の駅』という施設があり、水陸両用バス「スカイダック」の停留所になっている。丁度川を航行してきたバスが上陸するところであった。



船番所資料館から5分ほどで都営新宿線の東大島駅である。新宿三丁目で下車して恒例の反省会を行った。



荒川にて 参加者 14 名（一人は影だけ）

2019. 3. 26

俳句クラブの方から俳句を頂きました。

船番所 のこる運河や 柳の芽 松尾 良久

長堤や 小学唱歌 つくし摘む

親水公園 こわごわ覗く 蝌蚪の水

青柳 水車音なき 池の端 志賀 勉

鯉と亀 餌取りあふや 花の昼

番所跡 塩の道たり 春の河

参加者 金児利行、河合宏則、小島恕雄夫妻、志賀勉、辻直邦、原田一彦、松尾良久、
水野聰夫妻、水野博司、安村長生、臼井静江、中村仁美、 以上 14 名

写真と文 小島恕雄